

平成30年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評価		
2 学習指導の改善	(全体レベル) (1) 生きる力を育むため、基礎・基本の確実な定着を図り自己教育力を高める。 (2) 確かな学力の育成を目指し、学習内容の厳選・創造及び指導方法の工夫・改善を行う。 (3) 個性の伸長を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストへの道を拓く。 (詳細レベル) ①授業時数の確保 ②授業技術の向上 ③各種資格取得の奨励 ④自己学習力の育成 ⑤实际的・体験的な学習の充実・発展	評価指標 ①自習率 0.5%以下(0.6%) ②授業満足度 85% (82%) ③-1 全商検定3種目以上1級合格者 40名(37名) ③-2 技能奨励賞 65名(64名) ③-3 日商簿記検定2級合格 15名(14名) ③-4 ITパスポート試験合格 1名(1名) ③-5 建設業経理士2級合格 (3月11日試験 5月結果発表) 3名(*名) ④-1 図書館利用者数 4,500名 ④-2 一人あたりの年間読書冊数 3.0冊 ④-3 一人あたりの年間貸出冊数 1.5冊 ④-4 図書館通信の発行回数 12回 ⑤-1 地域連携活動テーマ数 13テーマ(13テーマ) ⑤-2 ビジネスアイデアコンテスト参加チーム数 3種11チーム(3種11チーム) 企業とのコラボ回数 50回(50回) ⑤-3 市場流通可能な商品開発数 5商品(5商品) ⑤-4 情報関係を除く科目を対象に試行する 3回(*回)	評価指標の達成度 (所見)	評価 総合評価		
		活動計画 ① 学校行事の精選を行うほか可能な限り振り替えを行い、授業時数を確保する。 ② 「学力向上」の実現のため生徒の実態にあった指導及び工夫改善を行う。 ③ 通常・検定前補習を充実させるほか個人指導を効果的に実施。 ④-1 図書館通信(推薦図書や新着図書案内)を充実させ、図書委員を通じてホームルームでの広報活動を行い、開かれた図書館作りに努める。 ④-2 朝読の時間を充実させる。また、学期に1回、推薦図書や新刊図書の案内を昼休みのTCS番組で放送してもらう。 ④-3 「ミニ・ビブリオバトル」「図書館祭」「POP作成」等に取り組み、広く啓発活動を行う。 ⑤-1 地域社会や企業等と連携した教育活動の実施 ⑤-2 ビジネスアイデアコンテストへの参加 課題研究における活動の実施 企業との連携による学習活動の実施 ⑤-3 地域企業との連携による商品開発の企画及び実施 ⑤-4 ICTや効果的な教授法等を導入した主体的・能動的な学びの実施	活動計画の実施状況			

平成30年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評価		
3人権教育の徹底	(全体レベル) (1) 人権尊重を基盤とする普遍的な視点をすべての学校教育活動に位置づけた人権教育を推進する。 (2) これまでの成果を踏まえ、具体的な人権課題に即した個別的・普遍的なアプローチによって人権尊重の理念を深めるとともに、課題解決に向けた実践的な意欲や態度を培う。 (3) 学校、家庭及び地域社会と連携を図り、生徒の自主的活動を支援する中で、人権意識の高揚と人権問題を解決する実践力を養う。 (詳細レベル) ①教職員の人権意識の高揚を図る研修の充実 ②生徒の主体的な活動を促すホームルーム活動の創造 ③生徒の自主活動の活性化	評価指標 ①-1 教職員人権研修の実施回数 4回(3回) ①-2 校内公開人権学習の実施回数 3回(3回)		評価 総合評価 (所見)		
		②人権問題ホームルーム活動の充実 具体的な個人人権課題に関する人権学習(全校および学年別)の実施回数 6回(6回) ③-1 人権に関する研修会(校外)への人権部の参加回数 1回(1回) ③-2 人権部員による全校生徒への人権啓発校内放送 5回(4回) ③-3 女川小学校支援活動実施回数 3回(3回)				
		活動計画 ①-1 全教職員の人権意識高揚に向けた研修会の実施 ①-2 授業づくりや教職員の人権感覚を高揚させるための人権関係の資料の作成 ②授業研究を深めるための公開人権ホームルームの実施および事後の研究協議の実施 ③-1 校外で行われる中高生による人権研修会への参加促進 ③-2 人権部員による全校生徒への人権啓発活動の実施 ③-3 女川小学校支援の積極的参加と支援活動報告	活動計画の実施状況			

【備考】 評価における「評価」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成30年度学校評価総括評価表

自己評価			評価		学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評定	総合評価	
4 生徒指導の徹底	(全体レベル) (1) 全教職員の共通理解のもとに、家庭との連携を密にし、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。 (2) 基本的生活習慣を確立させ、道徳・規範意識を高め、責任を重んじる態度の育成に努める。 (3) 部活動を奨励し、連帯感や愛校心を培い、社会人として望ましい資質・態度を育成する。 (詳細レベル) ① 商業高校生としての美しい振る舞いの育成 ② 基本的生活習慣の確立 ③ 規範意識と道徳的考え方を深化させ、いじめのない豊かな人間関係を醸成 ④ 部活動を通じた人心身の調和のとれた生徒の育成及びあらゆる機会でのリーダーシップを発揮できる生徒の育成	評価指標 ①-1 生徒指導理解率 教職員 100% (100%) 生徒 100% (94%) ①-2 身だしなみ達成率 100% (98%) ①-3 あいさつ実施率 100% (94%) ②-1 皆勤賞の取得率 50% (45%) 精皆勤賞の取得率 75% (76%) ②-2 遅刻率 1.0%以下 (0.3%) ----- ③-1 部活動加入率 100% (96.0%) ③-2 壮行会の開催 4回 (4回) ③-3 地域や中学生との交流会の実施 20部活動 (20部活動) ③-4 全国大会・四国大会出場部数 20部活動 (19部活動)	評価指標の達成度 ----- ----- -----	評定 ----- ----- -----	総合評価 ----- (所見)	
		活動計画 ①-1 あらゆる機会を通して、美しい振る舞いが社会人として必要な資質であることに気づかせる ①-2 全職員による身だしなみ指導を徹底し、生徒の意識を深化させる。 ①-3 あらゆる場面で、好感の持てるさわやかなあいさつが交わせるように指導する。 ②-1 家庭と連携し基本的生活習慣の育成を促すとともに、登校指導や月間の遅刻回数が2回を上回らないように目標を設定し、時を守ることに對する意識を高めさせる。 ②-2 遅刻累積の多い生徒に対して、保護者を交えて面談を実施する。 ③-1 部活動加入の継続を図る。 ③-2 四国・全国大会に向けて壮行会を開き士気を高める。 ③-3 部活動単位で必要に応じて積極的に地域や中学生との交流会を実施する。 ③-4 四国・全国大会の出場に向けて活動をさらに活性化する。	活動計画の実施状況 ----- ----- -----			

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成30年度学校評価総括評価表

自 己 評 価		評 価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	評価指標と活動計画	評価指標の達成度		総合評価	
		評価	評定		
5 進路指導の充実	(全体レベル) (1)自己の特性を理解させ、自らの在り方・生き方を考えさせる進路指導の充実を図る。 (2)望ましい勤労観・職業観を育成し、生徒の希望・能力・適性に応じた進路の実現を図る。 (3)進路開拓を推進し、進路先の確保に努める。 (詳細レベル) ①進路指導のガイドライン設定と教職員への周知 ②進路説明会の開催と進路相談の計画的な実施 ③進路情報の迅速・確実な提供 ④個別指導の充実 ⑤個性・能力の伸長と適切な進路サポート ⑥求人獲得と職場開拓	評価指標 ①対教師ガイダンス・研修会実施回数 20回(20回)		(所見)	
		②校内進路説明会・相談会実施回数 32回(32回) ③進路資料室の利用クラス 36クラス(3学期末36クラス) ④進路実現に向けての生徒の達成感 95%(95.4%) 進路決定に対する満足度 95%(96.3%) ⑤補習実施率 100%(100%) ⑥-1 訪問企業数 200社(237社) 会社見学 75社 生徒160名(71社 156名) ⑥-2 就職内定率 100%(99%)			
	活動計画 ①各学年と就職課・進学課との情報交換会を実施 教師対象の進路研修会・勉強会の企画・実施 ②校内進路説明会・相談会を計画的に実施 外部講師による就職講演会の実施 ③利用しやすい進路資料室作りの実施 生徒・担任・保護者への迅速かつ正確な情報伝達 ④進路実現に向けて生徒の意識付けをするガイダンスを実施 ⑤早朝補習の実施 ⑥-1 求人獲得とミスマッチ防止を図るための企業訪問を実施 ⑥-2 進路指導における最重要課題に位置づけ、本校の教育活動の全体を通じて展開	活動計画の実施状況			

【備考】評価における「評定」の基準 A:100%達成 B:80%以上達成 C:80%未満~70%以上達成 D:70%未満~60%以上達成 E:60%未満達成

平成30年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価			
6 情報化・国際化への対応	(全体レベル) (1) 施設・設備の充実を図り、情報活用能力と情報モラルの育成を図る。 (2) ICTの活用等により、教科指導の充実や校務の効率化を図り、教育の情報化を推進する。 (3) 自国の文化を正しく認識し、異文化との相互理解を深め、国際社会に生きる資質を養う。 (詳細レベル) ① ICT環境整備の推進と情報モラルの育成 ② ICTの活用による授業改善と校務の効率化 ③ 自国の文化及び異文化への理解	評価指標 ① クリアデスク実施率 90%(90%) セキュリティポリシー遵守率 100%(100%) ② ICT活用度 授業でのICT機器利用度 30% パソコン教室の利用度 90% 共有フォルダの利用度 90% ③ 国際交流活動回数 70回(70回)	評価指標の達成度 ③ 国際交流活動回数 回	評価 総合評価 A		
		活動計画 ①-1 情報セキュリティポリシーにのっとり、情報の漏洩防止を図る。 ①-2 校内情報セキュリティの強化に向けたシステムの再構成を企画する。 ①-3 クリアデスク推進日を設け、机上の整理、情報資産の取り扱い向上を図る。 ②-1 各教科の特性や生徒の実態を踏まえ、ICT機器を活用した授業実践を推進する。 ②-2 職員用サーバを活用し、校務の効率化と情報の共有化を推進する。 ③カンボジア・・・生徒の渡航1回 生徒受入1回 ドイツ・・・生徒の渡航1回 生徒受入1回	活動計画の実施状況			

【備考】 評価における「評価」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成30年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	評価		
7 健康・安全・防災 環境・主権者教育 の推進	(全体レベル) (1)生涯にわたって心身共に健康であるための基礎的な身体作りや食習慣を身につける。(食育) (2)自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。 (3)整理・清掃・整頓・清潔(4S)を徹底して環境美化に努め、奉仕する態度や公共心を養う。 (4)学校版環境ISO認定校として実践を推進し、環境問題への関心を高める。 (5)有権者として、自らの判断で適切に権利を行使できる政治的教養を身につける。 (詳細レベル) ①健康教育の充実 ②安全・防災意識の高揚と実践力の育成 ⑤主権者教育の充実	評価指標 ①-1 食に関するアンケート調査 年1回(1回) ①-2 3年生を対象として卒業前に「地産地消の料理講習会」を実施する。 年1回(1回) ①-3 食に関する展示を行い生徒・保護者への啓発を行う。 年2回(2回) ①-4食を考える食育通信の発行・掲示を実施する。 年3回(0回) ①-4 保健だよりの発行12回(12回) ①-5 ホームルーム活動 年1回(1回) ①-6 飲酒・喫煙・薬物乱用防止授業の実施 1年回(1回) ①-7 心肺蘇生法講習会 1回(1回)	評価指標の達成度	評定	総合評価 (所見)	
		②防災啓発活動の実施 年2回(2回) ③清掃状況の点検と改善 年6回(6回)				
		④-1 ゴミ分別処理の点検常時指導(常時) ④-2 節電・節水の推進を図る。毎月の使用量を廊下に掲示(常時)				
		⑤各学年において主権者教育を行い、意識の醸成を図る。 年3回(3回)				
		活動計画 ①-1 生徒の食習慣の実態を把握し食と健康、食に関する自己管理実践能力を育成する。 ①-2 食の自立に関する啓発活動を行う。 ①-3 PTA総会、文化祭の時に実施予定。 ①-4 健康に関する情報発信を行う。(職員生徒への啓発・掲示を行う) ①-5 生徒の課題である健康問題を取り扱い、生活の改善を図る。 ①-6 1年生で喫煙・飲酒・薬物乱用防止授業を行う。 ①-7 健康・安全に関する意識を高め、けがの予防やメンタルヘルスを保つ取り組みを行う。 ①-8 講習を通じて救命についての意識、実践力を育成する。 ②防災クラブ(生徒会・家庭クラブ)が中心となり、全校生徒を対象として啓発活動を行う。 ③環境委員が清掃状況チェックを行い、自己評価し改善に生かす。 ④-1 環境委員がゴミ分別状況調査を行う。 ④-2 環境委員会を中心に節電・節水を呼びかける。 ⑤ホームルーム活動や主権者教育に関する資料の配付や発表会、講演会、模擬投票等により、自らがより良い国家を作り上げる主権者であることを気づかせ意識を深化させる。	活動計画の実施状況			